

文型シラバスの授業をCan-do化する試み —Can-do化授業が学習者に及ぼす影響に関する一考察—

頼 美 麗

1. はじめに

台湾の日本語教育機関では文型シラバスによるテキストを1課から順序よく用いた画一的な教育が行われ、到達目標もテキストの何課まで終わったか、どのような文型や文法を知っているか、語彙や漢字をいくつ知っているかといった言語知識を中心に設定されることが多い。しかし、日本語の熟達度を「初級」、「中級」、「上級」、「学習した時間数」、「語彙数」といった曖昧な到達目標の設定では学習者にとって日本語を使って何ができるようになるかという点は見えにくい。また、台湾の学習者から「入門者の私たちはどのくらい勉強したら、日本語能力試験N1に合格できるのか」、「大学で4年間日本語を専攻して勉強したら、どのくらいのレベルに到達するのか」、「期末試験までは何課まで勉強するか」などの質問がよく聞かれる。自分の日本語のレベル、授業の進度を意識し、深い関心を示すものの、授業を履修して日本語で何ができるようになるのか、といったことを意識する学習者が少ないのは現状であろう。

近年外国語教育において、学習者が目標言語を用い「何ができるか」というCan-doの視点から、学習目標の記述と提示、評価の方法、授業の内容と方法などに関する様々な改革が行われている。国際交流基金ではCEFR (Common European Framework of Reference for Languages) の考え方に基づき、2010年に日本語の教え方、学び方、学習成果の評価の仕方を考えるためのツール、JF日本語教育スタンダードを発表した。

本稿では文藻外国語大学日本語学科で開講された初級の文法・文型の学習を中心とする文型シラバスの授業「日文(一)」にCan-doの要素を取り入れ、My Can-do (自分の学校、コース、授業、学習者の目標に合ったCan-do)¹⁾の作成

の過程、授業の内容、進め方を述べる。また、長沼(2011)ではCan-doリストがあることで、学習者は何を目標せばよいのかが明確になり、自分にもできるかもしれないとやる気と自信を与えることにつながると指摘している。本実践では学習者に「～ができる」というCan-do記述で授業の到達目標を提示し、その目標を基に授業活動をデザインしたが、これらは学習者の動機付け、学習への取り組みにどのような変化を与えたかを明らかにするために、アンケートを実施しその結果を考察することとする。考察した結果を教師の内省の手がかりとし、授業の改善に生かすことを本稿の目的とする。

2. Can-doのメリット

国際交流基金は日本語熟達度の尺度としてCEFR (言語のためのヨーロッパ参照枠; 以下、CEFR) を参考に2010年にJF日本語教育スタンダード (以下、JFスタンダード) を発表をした。CEFRでは言語の熟達のある段階でできる言語活動や持っている言語能力の例を「～ができる」という例示的記述文 (以下、CEFR Can-do) で示している。CEFR Can-doは汎言語的で抽象度も高いことから、国際交流基金はそれに加え、より日本語教育で使いやすいJF Can-doを作成し、CEFRに準じる6つのレベル (基礎段階のA1とA2、自立段階のB1とB2、熟達段階のC1とC2) を提示した。小松・横山(2012)ではCan-doのメリットについて「①熟達度を客観的に示すことができる、②学習目標を明確にすることができる、③それを他の人と共有できる」と指摘している。また長沼(2011)ではCan-do評価を小学校英語活動に導入し、Can-do評価は動機づけと自律性の向上に効果を持つと述べ、有感性を高めるには具体的に能力記述Can-doに基づいた代替的評価は有効な

手立てとなるとしている。

3. Can doを取り入れた授業の実践

2013年度文藻外国語大学日本語学科で開講された科目「日文（一）」において実践を行った。本稿では2013年9月から11月までの実践結果²⁾を分析することとした。11月までの進捗は指定教科書³⁾第1課から第3課までということになっている。本章では授業の概要、My Can-doの設定、授業の内容と進め方について述べる。

3.1. 授業の概要

「日文（一）」は大学一年生が履修する週4コマの文型シラバスの授業であり、学科により設定された一年（36週）での授業の目標⁴⁾は「語彙1000語～2000語」、「基本的な文型を使い、簡単な文を作ることができる」、「N5～N4に相当する日本語能力に達成する」である。授業内容は「助詞の使い方、連体修飾、自他動詞の弁別、依頼表現、可能形、動詞、い形容詞・な形容詞の活用形およびその使い方」とされている。教科書は学科指定の『進學日本語初級1改訂版』、『進學日本語初級1練習帳改訂版』、『進學日本語初級1宿題帳』を使用し、進捗は秋学期と春学期で6課ずつ、第12課まで進むことになっている。考察対象となった授業の履修者数は46人、うち大学一年生は40人、他には二年生と四年生の再履修生はそれぞれ1人と5人である。本稿は秋学期前半2013年9月13日～11月15日までの授業を考察することとする。

3.2. Can-do形式の目標設定

国際交流基金はCan-doは単に言語活動と言語能力の例示であって全てを網羅したものではないことからCan-doを活用する各教育機関で各々の教育現場に合った独自のCan-do記述を新たに設定していくことを提案している（国際交流基金2010：15）。本研究では授業のレベルを基礎段階のA1とし、コース全体の到達目標（Goal）、単元の目標（Objectives）、具体的な目標（Outcomes）を設定した。

まず、コース全体の到達目標は国際交流基金(2010)で提示されたCan-doの記述内容の構造⁵⁾に基づき、学科により指定された教材の内容および学科により設定されたコースの目標を参考に、全体の到達目標（Goal）を次の表1のように設定した。

表1：

Can-do記述の構成に基づいて設定した目標(Goal)

条件： モデル文を参考にし、使いたい言葉を調べておけば、
話題・場面： 日常のこと、身の回りのことについて、
対象： 単純な語句、簡単な表現を用い、
行動： 述べたり、質問をしたり、答えたりすることができる。

次に単元の目標（Objectives）を3つ設定した。設定の際に、まず指定教材の第1課から第3課までの文型と学習項目からどのようなトピックが考えられるのか、そしてそれらの文型や学習目標が実際にどのようなコミュニケーション場面で使われるのかを考えてみた。指定教材の第1課から第3課までの主な文型と学習項目は次の表2（次頁）のとおりである。

表2：『進學日本語初級1改訂版』

第1課～第3課の主な学習項目

課	学習項目
第1課	①___は(名詞：人、物)です/ではありません/ですか。 ②___も___です/ではありません/ですか。 ③これ、それ、あれ ④何ですか、誰ですか。 ⑤何の___本___ですか。___数学___の___本___です。 ⑥誰の___本___ですか。___アリフさん___の___本___です。
第2課	①___は(形容詞)です。 ②___は___ですか、___ですか。 ③この～、その～、あの～、どの～ ④ここ、そこ、あそこ、どこ ⑤そこは何ですか。 ⑥きれいですね。 ⑦～。しかし、～
第3課	①きれいな町、大きいかばん(形容詞+名詞) ②___に___が います/あります。 ③___は___に います/あります。 ④___に ___誰/何___が いますか/ありますか。 ⑤___は ___どこ___に いますか/ありますか。 ⑥ A と B ⑦ A や B など ⑧石の上にかめがいますよ。

表2の学習項目から「自己紹介」、「物と場所の紹介」、「町の紹介」の3つのトピックを設け、各トピックで次の表3のようにCan-do形式の単元の目標を設定した。

表3：トピックと単元の目標 (Objectives)

単元	トピック	単元の目標 (Objectives)
1	自己紹介	自己紹介や日本語母語話者との交流の場面において日常的な表現、基本的な表現を用い、簡単なやりとりができる。
2	物と場所の紹介	物の紹介、場所の案内の場面において日常的な表現、基本的な表現を用い、簡単なやりとりができる。
3	町の紹介	町を紹介する場面において、写真や映像を取り入れ、基本的な表現を用い、簡単な紹介の文を書くことができる。

また、各単元の目標に到達させるために、毎回の授業では次の表4のように具体的な目標

(Outcomes) を設定し、授業を進めることとした。

表4：授業における具体的な目標

単元	具体的な目標 (Outcomes)
1	<ul style="list-style-type: none"> 自分の所属、名前、出身を言うことができる。 相手の名前、出身を尋ねることができる。 相手の身分を確認することができる。 自分の趣味を言うことができる。 相手の趣味を尋ねることができる。 簡単に自己紹介することができる。
2	<ul style="list-style-type: none"> 相手に物、建物の名前を紹介することができる。 相手に知らない物、建物について尋ねることができる。 相手が物や建物などを紹介してくれたとき、簡単に感想を言うことができる。
3	<ul style="list-style-type: none"> 町や紹介したい所の名称を紹介することができる。 町、紹介したい所の位置を紹介することができる。 簡単に町の特徴を紹介することができる。 <p>①どんな町(所)かを簡単に紹介することができる。</p> <p>②町には何があるか(名物、観光スポット、店など)を紹介することができる。</p>

3.3. 授業の内容および進め方

前の節で述べた目標に到達するために、「Can-do形式による目標の提示→インプット→言語活動⁶⁾における練習→評価」と4つのステップに沿って授業を行った。

3.3.1. 目標の提示

まず、最初の授業では学科により設定された目標および、3.2.で述べたコース全体のCan-do目標、そして中間テストまでの各単元の目標を提示し、このコース、そして中間テストまでの目標を学習者に大まかに把握させた。毎回の授業ではその日に目指す具体的な目標 (Outcomes) を提示し、その目標に到達するためのインプットと練習を行うこととした。

その日の目標を提示する際には、学習者にどのような場面でこのようなCan-doが必要なのかを理解させ、それぞれの場面に関してよりイメージをつかみやすくするために、次の例のように具体的な場面(どんなときに、誰が誰に向かって、何のために)を示しながら目標を提示するようにし

た。その場面に必要なCan-doは一つだけの場合と一つ以上の場合がある。また、場面とCan-doの提示はプリントと板書に口頭での説明を加えた。これらはすべて学習者の母語を用い、提示した。次の例は実際の授業で行った場面と目標の説明を日本語に訳したものである。

【目標提示の例】

その日の目標	①相手の身分を確認することができる。 ②簡単に自己紹介ができる。
具体的な場面例	<p>【場面】 あなたは日本の大学からの交換留学生のチューターに選ばれた。あなたは先生からもらった資料で留学生の名前を知った。留学生の名前は佐藤です。あなたは今日留学生と初めて会う。事務室に入って、日本からの留学生が何人かいた。佐藤さんらしい人を見つけた。その人に身分を確認し、簡単に自己紹介をする。</p> <p>【目指すこと】 相手が自分の探している人かどうかを確認し、その相手に簡単に自己紹介することができる。</p>

3.3.2. インプット

本稿では学習項目を提示し、定着を図るための練習までの一連活動をインプットとするが、授業におけるインプットの仕方を例で示しながら説明する。

まず、学習者に目標を提示した後、その場面に使われる言語の材料、例えば会話文などを提示する。次の会話文はその一例である。最初に教師はこの場面に現れた役を演じ、口頭でその場面に使われる会話の例を学習者に示した。

【会話文の例】

陳 : あもう、すみません。 東京大学の佐藤さんですか。	} 相手の身分の確認
佐藤 : はい、そうです。	
陳 : はじめまして。 わたしはチューターの陳です。	} 簡単な自己紹介

次にプリントで上述した例のように会話文と学習項目（下線の部分）を提示し、会話文に提示した文型、語彙、表現などを説明し、定着するため

の練習を行った。また、語彙は指定教材にある語彙に限らず、学習者が実際に遭遇する場面を想定し、提出語彙を選択した。

【文型の提示と練習の例】

<p>文型1： <u>所屬</u> の <u>名字</u></p> <ul style="list-style-type: none"> •日本語学科の～ です。 •文藻大学の～ です。 •〇〇クラスの～ です。 <p>文型2： <u>職務、身分</u> の <u>名字</u></p> <ul style="list-style-type: none"> •チューターの～ です。 •主任の～ です。 •担任の～ です。

3.3.3. 言語活動における練習

インプットが終わり、各単元の目標に基づいて設定したCan-doタスクを学習者に提示した。学習者がインプットで学習したものを使い、設定したCan-doタスクが完成できるように指導した。言語活動では学習者の表現したいことに着目し、使用する表現に関しては特に制限を設けなかった。語彙については事前に使いたい語彙、知りたい語彙を調べ、「マイvocabularies」という語彙リストを作成することを勧めた。

各単元の目標を考えて作成したCan-doタスクの例は次のとおりである。

表5：Can-doタスクの例

単元	Can-doタスク
1 (やりとり)	空港に行って、会ったことのない留学生を迎えに行った。留学生が出口のところに立っているのを見た。留学生の名前を確認し、相手に簡単に自己紹介をする。
2 (やりとり)	紹介したい物（テーマ：面白い物）の写真や実物を教室に持ってくる。互いに聞き合ったり、説明し合ったりする。
3 (産出：書く)	パワーポイントを用い、写真や映像などを取り入れ、町の紹介の内容を作成する。

3.3.4. 評価

評価は言語能力の評価、Can-doタスクの評価、中間試験に分けられる。

まず文型、語彙などの言語知識に関する評価は授業中筆記試験で行った。Can-doタスクの評価には「ふり返しノート」を使用し学習者の自己評価を行った。「ふり返しノート」の使用は学習者が学習の過程、結果を振り返ることによってモニター力の向上に繋がると考えたためである。「ふり返しノート」は授業終了後に学習者が「ふり返しノート」に記入（自由記述）、教師が回収し、次の授業までに「ふり返しノート」にコメント、アドバイス等を加え、学習者に返却するようにしフィードバックを行った。

中間テストでは次の表6のように評価項目と評価基準を学習者に示し、町の紹介に関する文章作成の問題を設けた。

3.3.5. 従来の授業との比較

教室内外における学習活動のデザインに関して、Can-doの概念を取り入れた授業と従来の授業で異なる点が大きく5つ挙げられる。

目標提示の仕方、導入とインプットの仕方、練習の仕方、語彙の提示と学習、評価の方法である

従来の授業では学習者に「今日は～という文型を勉強しよう」というようにその日の学習の目標は○○という文型の勉強であることを提示していた。また、「中間テストまでの予定は第3課を

終わらせること」というように、学習の目標より、進捗を示すような提示の仕方をしていった。しかし、今回の授業において、目標の提示は「～は～です」や「第3課まで」のような文型や進捗ではなく、「自分の名前を言うことができる」、「相手の名前を尋ねることができる」というように「何ができるか」に着目した。

導入とインプットの仕方に関しては、従来導入する予定の文型を例文とともに提示し、その意味や文法上の留意点などを説明していた。一方、今回では場面とまとまった段落や会話を提示し、学習者に文型そのものの意味だけではなく、それぞれの文型のその場面における機能、使い方なども示した。

また、文型の学習ではなく、「何ができるか」ということが目標になっていたため、練習の際に教科書にある文型の練習だけでは設定した目標に達成することは難しい。教科書の文型練習の延長として学習者が日常で遭遇しそうな場面で使える語彙を提示しながら、文型の練習を行うことにした。また、単元目標に基づいて設定したCan-doタスクを提示し、学習者が実際に「話す」、「書く」などの言語活動を行い、それぞれのタスクを遂行させるという練習の仕方を取った。

表6：評価項目と評価基準

基準評価項目	3	2	1	0
①適切に町の名称を紹介することができるかどうか。	適切な表現、語彙を使い、町の名称を紹介することができる。	適切な表現、語彙を使用しているが、表記や句読点など不適切なところがある。	表現や語彙の使用には不適切なところがある。	町の名称に関する記述がなかった。
②適切に町の位置を紹介することができるかどうか。	適切な表現、語彙を使い、町の位置を紹介することができる。	適切な表現、語彙を使用しているが、表記や句読点など不適切なところがある。	表現や語彙の使用には不適切なところがある。	町の位置に関する記述がなかった。
③どんな町かを適切に紹介することができるかどうか。	適切な表現、語彙を使い、町の特徴を紹介することができる。	適切な表現、語彙を使用しているが、表記や句読点など不適切なところがある。	表現や語彙の使用には不適切なところがある。	町の特徴に関する紹介の内容がなかった。
④例を挙げながら、町にどんな店があるかを紹介することができるかどうか。	適切な表現、語彙を使い、町にどんな店があるかを紹介することができる。	適切な表現、語彙を使用しているが、表記や句読点など不適切なところがある。	表現や語彙の使用には不適切なところがある。	町にどんな店があるかに関する紹介がなかった。

そして、それぞれのCan-doタスクを遂行させるために、学習者が教科書にないが使いたい語彙を調べたり、使ったりする必要があり、結果的に教科書以外の語彙の学習にもつながることになる。

評価の仕方については、従来文型や文法知識の確認を中心とした筆記試験を行っていたが、今回は従来の筆記試験に学習者の自己評価を加えた。学習者が自分の学習の過程と結果を振り返り、自己評価を行った。そして、テストには文章を作成する問題を設け、学習者に予め評価項目と評価基準を示し、学習者が評価項目を基準によって再確認し、評価の結果から自らその目標に到達したかどうかをチェックすることができるようにした。

4. 実践の結果と考察

Can-doの概念を授業に取り入れ、従来の授業とは異なる形態で実践してみたが、それは学習者の日本語の学習にどのような影響を与えたかを調べるためにアンケート調査を行った。

4.1. アンケート調査の概要

Can-doの概念を取り入れおよそ3か月授業を実施したあと、アンケート調査を行った。調査は2013年11月に授業中に行った。調査当日46人の履修者のうち、2人欠席していたため、調査票は44部配布し、44部回収した。また、本研究では回収した44部の調査票のうち、再履修生6人を除き、一年生38人（男性10、女性28）のみを考察の対象とした。調査の目的は次の3点を明らかにすることである。

- (1)学習者にとってどのような目標の提示の方法が理解しやすいのか。
- (2)学習者はどのような活動や練習が学習目標の達成につながると感じたのか。
- (3)Can-doの概念を取り入れた目標の提示の仕方、授業活動、練習などは学習者の動機づけと自律的学習を促す効果があるかどうか。

以上の点を明らかにするには中国語で調査票⁷⁾を作成した。回答は5段階尺度とした設問を19設けた。分析は各設問の平均値を算出し、比較することとした。

4.2. 調査結果の分析と考察

4.2.1. より理解しやすい目標の提示方法

学習者にとってどのような提示の方法が学習目標への理解に役立つのかに関して調査した結果、次の表7のような傾向が見られた。Can-do形式による目標提示が最も理解しやすい（平均値：4.58）、その次は評価項目と評価基準の提示によって学習目標を把握する（平均値：4.42）であった。文型羅列形式は4.03で、いずれの項目も4以上という結果となったが、文型羅列形式よりCan-do形式による目標提示および評価項目と評価基準の提示のほうがより学習目標の理解に役立つと考える傾向が見られた。

表7：目標提示に関する調査結果

項目	最小値	最大値	平均値	標準偏差
1.Can-do形式の目標提示	3	5	4.58	0.552
2.文型羅列形式の目標提示	3	5	4.03	0.677
3.評価項目、評価基準の提示	3	5	4.42	0.683

授業中、教師が今日の授業は「～は～です」を習得することというように学習者にその日の学習目標を説明することがあるが、学習者が勉強する前に教師が言った文型の意味も使い方もわからないため、学習者にとって具体性が低い提示の仕方になるのではないかと考えられる。一方、今日の授業では「自分の名前、所属を紹介することができる」が目標だというCan-do形式による目標提示は学習者が日常生活では行っている行為であるため、文型形式より具体性が高く、学習者にとってより把握しやすいと思われる。また評価の際に評価項目と評価基準を提示することによって学習者にどのようなことがどのような程度で求められているのかがわかり、結果学習目標への理解につながると考えられる。

4.2.2. より学習目標の達成につながる練習と宿題

授業中に行われた活動、練習、与えられた宿題などが目標達成に役に立ったかどうかに関しては、次頁の表8のとおりであり、Can-doタスクを完

成させるための宿題が4.45で最も高く、その次は授業中に行った教科書以外の練習活動で4.32となった。語彙の学習に関しては、教科書にある単語リスト（4.11）より、自分で知りたい語彙を調べる宿題（4.21）のほうがより学習目標の達成に役立つという結果が見られた。

表8：目標達成に役立つ練習方法に関する調査結果

項目	最小値	最大値	平均値	標準偏差
4.授業中の教科書以外の練習活動	3	5	4.32	0.662
5.教科書の練習問題	3	5	4.11	0.606
6. Can-doタスクを完成させるための宿題	3	5	4.45	0.602
7.教科書にある語彙リストを用いた語彙の学習	3	5	4.11	0.800
8.知りたい語彙を調べる宿題	3	5	4.21	0.811

教科書の練習問題は次の例のような練習問題が多く見られるが、これは短文の型の定着や文法、文型理解の確認など基礎練習として必要であろう。しかし、問題と問題の間の関連性が低く、どんな場面で使われるのかという情報もないため、学習者に提示した「相手に物の名前を紹介することができる」といった学習目標に直接結びにくいところがあると考えられる。その他の練習活動や宿題は学習目標と関連がある場面が提示されているため、教科書の練習問題に比べより学習目標の達成に結びつくと言えよう。

例) 『進学日本語初級 I 練習帳改訂版』
(大新書局) pp.9

- ・ (れい) これは ほんです。(わたし)
→ これは わたしの ほんです。
- ・ これは じじよです。(えいご)
→ これは えいごの じじよです。

語彙の学習に関しても教科書に提示された語彙より、タスクを完成させるため自ら調べたい、知りたい語彙を調べたほうがより学習目標の達成に

つながるであろう。

4.2.3. 学習者の動機づけと自律的学習を促す学習

次に授業のやり方や学習方法が学習意欲を引き出すことができたかどうかに関する調査は表9のような結果が得られた。学習者にとって最も学習意欲の向上につながる学習活動はCan-doタスクを完成させるための宿題で、4.34であった。次に知りたい語彙を調べる宿題が4.13、授業中の教科書以外の練習活動が4.08、Can-do形式の目標提示が4.05となった。教科書の文型（3.84）、語彙の提示（3.84）、練習問題（3.68）が前述した項目より低い結果となった。

表9：学習意欲の向上に関する調査結果

項目	最小値	最大値	平均値	標準偏差
9.学習目標の提示	3	5	4.05	0.695
10. 文型羅列形式の目標提示	3	5	3.84	0.594
11.授業中の練習活動(教科書以外)	3	5	4.08	0.749
12.教科書の練習問題	3	5	3.68	0.662
13. Can-doタスクを完成させるための宿題	3	5	4.34	0.708
14.教科書にある語彙リストを用いた語彙の学習	3	5	3.84	0.718
15.知りたい語彙を調べる宿題	3	5	4.13	0.811

また、練習活動や宿題に積極的に取り組んでいたかどうかに関しては次の表10（次頁）のような結果となったが、Can-doタスクを完成させるための宿題が4.11で最も高く、課題を完成させるために積極的に取り組んでいたことがわかった。次に授業中の教科書以外の練習活動が4.03で、知りたい語彙を調べる宿題が3.97であった。教科書の練習問題の平均値が最も低く、3.34という結果であった。

表10：学習者の授業への取り組みに関する調査結果

項目	最小値	最大値	平均値	標準偏差
16.授業中の練習活動 (教科書以外)	3	5	4.03	0.677
17.教科書の練習問題	1	5	3.34	0.938
18. Can-doタスクを 完成させるための 宿題	2	5	4.11	0.831
19.知りたい語彙を 調べる宿題	2	5	3.79	0.905

全体において、教科書にかかわる学習より、Can-do形式の目標を達成させるために行った学習活動のほうが学習意欲を引き出し、学習者がより積極的に取り組む傾向が見られた。前者より後者のほうが学習の目標が明確で具体性があるため、様々な学習活動を行っているうちに達成感が湧き、学習意欲の向上につながるのではないだろうか。また、学習者が学習目標の達成のために日本語で表現したいと思うことや内容そして使いたい表現や語彙を制限しないことで学習意欲を向上させたことも考えられる。よって後者の学習活動は学習者の動機づけにおいてより効果的であり、自律的学習を促す効果もあることが言えよう。

5. まとめと今後の課題

本稿では従来の文型シラバスの授業にCan-doの概念を取り入れ実践を試み、そしてそのような形態の授業が学習者の学習にどのような影響を与えたか、学習者を対象にアンケート調査を行った。アンケート調査の結果から、学習者にとってCan-do形式の目標提示はより明確で理解しやすく、Can-doタスクを完成させるための宿題は学習目標の達成に役に立つということがわかり、Can-doタスクの遂行に行われた様々な活動が学習者の学習意欲を引き出し、学習者が教科書の練習問題や語彙の学習より積極的に取り組むことも明らかになった。学習者により明確なCan-do形式の学習目標を提示し、学習した文型などをCan-doタスクの言語活動に応用できる機会を与えたため、学習意欲の向上と自律的学習につながる言えよう。

今回は学習者中心のアンケート調査の結果を考察したが、次に教師が文型シラバスの授業をCan-doの概念を取り入れ、授業をデザインする際に遭遇する問題点については今後の課題にしたい。

注

- 1) My Can-doの定義は(小松他、2012)を援用。
- 2) 学期の始まりから中間テストまでの実践結果である。
- 3) 教科書は『進學日本語初級1改訂版』、『進學日本語初級1練習帳改訂版』、『進學日本語初級1宿題帳』を使用。上述した教科書は台湾の出版社が日本学生支援機構東京日本語教育センター(2002)『進学する人のための日本語初級改訂版』の本冊文(第1課～第12課)、『語彙リスト改訂版』(第1課～第12課)、『進学する人のための日本語初級練習帳1改訂版』、『進学する人のための日本語初級宿題帳』、『進学する人のための日本語初級漢字リスト』の著作権を取得し、出版したものである。
- 4) 本実践を行った教育機関では1学年に4クラスあり、授業の目標は学科により設定された共通のものである。入学時には学習者の日本語のレベル差があるため、授業目標に「N5～N4」というように記述されている。本実践の対象クラスの学習者の全員が入学時には平仮名と片仮名の既習者である。到達目標はN5に相当する日本語能力に達成することである。
- 5) 国際交流基金(2010)ではCan-doの記述内容は次のような構造を持っているとされている。「Can-do」＝「条件」＋「話題・場面」＋「対象」＋「行動」。
- 6) 言語活動は受容(読む、聞くなど)、産出(話す、書く)、やりとりなどのコミュニケーション言語活動を指す。
- 7) 付録を参照。

参考文献

- 串田紀田美 (2012) 「Can-do 形式によるタスク遂行型のシラハス構築の試み：中上級レベルの「文法復習」シラバスの見直し」, 『日本研究センター教育研究年報』1, アメリカ・カナダ大学連合日本研究センター [online] www.iucjapan.org/pdf/nenpou2012_Kushida.pdf.
- 国際交流基金 (2010a) 『JF日本語教育スタンダード2010』国際交流基金.
- 国際交流基金 (2010b) 『JF日本語教育スタンダード2010利用者ガイドブック』国際交流基金.
- 小松知子・横山紀子 (2012) 「『JF日本語教育スタンダード』セミナーの報告と評価：参加者による言語熟達度の記述の分析から」 『日本語言語文化研究会論集』8, 政策研究大学院大学
- 塩澤真季・石司えり・島田徳子 (2010) 「言語能力の熟達度を表すCan-do記述の分析：JF Can-do作成のためのガイドライン策定に向けて」, 『国際交流基金日本語教育紀要』6.
- 當作靖彦 (2014) 「スタンダードに基づいた日本語教育：マスタープランからレスンプランへ」, 台湾日語教育学会 J-GAP TAIWAN 2014年特別ワークショップ.
- 長沼君主 (2011) 「小学校英語活動における自律性と動機づけを高めるCan-do評価の実践」, 『ARCLE REVIEW』5.
- 日本学生支援機構東京日本語教育センター (2004) 『進學日本語初級 I 改訂版』大新書局.
- 日本学生支援機構東京日本語教育センター (2008) 『進學日本語初級 I 練習帳 改訂版』大新書局.
- 野田尚史 (2005) 「コミュニケーションのための日本語教育文法設計図」, 『コミュニケーションのための日本語教育文法』くろしお出版.
- (2012) 「日本語教育に必要なコミュニケーション研究」, 『日本語教育のためのコミュニケーション研究』くろしお出版.
- 森本由佳子・塩澤真季・小松知子・石司えり・島田徳子 (2011) 「コミュニケーション言語活動の熟達度を表すJF Can-doの作成と評価：CEFRのA2・B1レベルに基づいて」, 『国際交流基金日本語教育紀要』7.
- (2015年3月15日受付、2014年3月28日再受付)

調 查 票

編號:

調查日期: 2013/11/15

1.你覺得提示具體的學習目標(例如:學會詢問對方的姓名,學會介紹城市位置)有助於你瞭解學習目標。

(5)□非常同意(4)□同意 (3)□普通 (2)□不同意 (1)□非常不同意

2.你覺得課本裡的句型提示有助於你瞭解學習目標。

(5)□非常同意(4)□同意 (3)□普通 (2)□不同意 (1)□非常不同意

3.你覺得事先提示考試的評分項目及評分標準有助於你瞭解學習目標。

(5)□非常同意(4)□同意 (3)□普通 (2)□不同意 (1)□非常不同意

4.你覺得課堂上的練習活動(課本習題除外)有助於你達成學習目標。

(5)□非常同意(4)□同意 (3)□普通 (2)□不同意 (1)□非常不同意

5.你覺得課本的句型練習題有助於你達成學習目標。

(5)□非常同意(4)□同意 (3)□普通 (2)□不同意 (1)□非常不同意

6.你覺得課本以外的作業(例:文藻附近的商店介紹、城市介紹等)有助於你達成學習目標。

(5)□非常同意(4)□同意 (3)□普通 (2)□不同意 (1)□非常不同意

7.你覺得課本的單字表有助於你達成學習目標。

(5)□非常同意(4)□同意 (3)□普通 (2)□不同意 (1)□非常不同意

8.你覺得查自己想用的單字或自己想知道的單字完成「マイvocabularies」單字表有助於你達成學習目標。

(5)□非常同意(4)□同意 (3)□普通 (2)□不同意 (1)□非常不同意

9.你覺得提示具體的學習目標(例如:學會詢問對方的興趣)有助於提高你的學習意願。

(5)□非常同意(4)□同意 (3)□普通 (2)□不同意 (1)□非常不同意

10.你覺得課本裡的句型提示有助於提高你的學習意願。

(5)□非常同意(4)□同意 (3)□普通 (2)□不同意 (1)□非常不同意

11.你覺得課堂上的練習活動(課本習題除外)有助於提高你的學習意願。

(5)□非常同意(4)□同意 (3)□普通 (2)□不同意 (1)□非常不同意

12.你覺得課本的習題有助於提高你的學習意願。

(5)□非常同意(4)□同意 (3)□普通 (2)□不同意 (1)□非常不同意

13.你覺得課本以外的作業(例:文藻附近的商店介紹、城市介紹等)有助於提高你的學習意願

(5)□非常同意(4)□同意 (3)□普通 (2)□不同意 (1)□非常不同意

14.你覺得課本的單字表有助於提高你的學習意願。

(5)□非常同意(4)□同意 (3)□普通 (2)□不同意 (1)□非常不同意

15.你覺得查自己想用的單字或自己想知道的單字完成「マイ vocabularies」單字表有助於提高你的學習意願。

(5)□非常同意(4)□同意 (3)□普通 (2)□不同意 (1)□非常不同意

16.你覺得你用心參與課堂練習(課本習題除外)。

(5)□非常同意(4)□同意 (3)□普通 (2)□不同意 (1)□非常不同意

17.你覺得你用心做練習帳、宿提帳的習題練習。

(5)□非常同意(4)□同意 (3)□普通 (2)□不同意 (1)□非常不同意

18.你覺得你用心做文藻附近商店的介紹、城市介紹等作業。

(5)□非常同意(4)□同意 (3)□普通 (2)□不同意 (1)□非常不同意

19.你覺得你用心查自己想用或想知道的單字。

(5)□非常同意(4)□同意 (3)□普通 (2)□不同意 (1)□非常不同意

～～問卷到此結束，請再度確認是否有漏填，謝謝填寫～～